

## 城南区人啓連だより

令和7年度福岡市人権尊重週間 第54回人権を尊重する市民の集い（城南区会場）  
令和7年12月6日（土）14:00～15:40 城南市民センターホール

- ・演題 「ぼくの宝物」
- ・講師 東京パラリンピック シットイングバレーボール日本代表選手  
嵯峨根 望（さがね のぞむ）さん

今年度の人権を尊重する市民の集いは、大阪府和泉市で先天性四肢障がい児として生まれ、両足に義足を履いて生活されている嵯峨根望さんを講師にお迎えし、「ぼくの宝物」と題して、幼少期に手術し両足が義足になったこと、障がいに対する受け止め方の変化や小学校から現在まで「いじめ」を助けてくれた友達との出会いが、障がいを受容できたことにつながったことなどを会場の参加者と会話をしながら、ユーモアを交えてお話しいただきました。

嵯峨根さんは、「みんなは足があるがぼくだけ足がない、私は両足が義足ですが、宝物は義足でなく、ぼくの“足！”が宝物です。みなさんも人と違い、いやなこともあるはず。隠そうとすることもありますが、きつといずれ気にしなくなることが絶対くる。だから、そのままでもいい、無理しなくていいんです。」と自己肯定感を高めることが大事だと語られ、さらに、「友達の困りごとを助けるように、障がい者が困っていたら声をかける。そんな感覚が大事」と語られました。



また、障がいがあることを知ってもらうことの大切さや、自分自身ができることを考えなんでもチャレンジしていくことの大切さを語られました。

東京2020パラリンピックのシットイングバレーの話では、日本代表選手として、選手村のことや試合状況を写真や映像を見せながら解説されました。

最後に「足がなくても楽しく生きられる」「障がいがあっても、周りの人のおかげで楽しく生きてこられた」「夢はかなう」「自分しかできないことをしていきたい」「前向きに乾杯！」「みなさんも前向きに！」と本当に明るく、元気に障がいを乗り越えられてこられた実話の講演会でした。

参加者アンケートでは、「とてもすてきな話が聞けて、感謝です」「前向きな話は聞いていて楽しいです」「大変すばらしい講話でした。目の前の事を一生懸命にやれば夢がかなうという事に心を動かさせていただきました」など、みなさんの励みになる講演会であったとの感想が多かったです。